

第 80 回 GAORA 番組審議会記録(2023 年 3 月開催)

第 80 回番組審議会が 3 月 7 日(火)に開催され、以下の番組について審議を行い委員の皆様から次のようなご意見をいただきました。

<審議番組> THIS IS DRAGONGATE ～夢の扉 その先へ～
初回放送:2023 年 1 月 20 日(金)22:00～23:00

<番組概要>

コアファンはもちろん、女性・子どもからも人気を集め、今、「ドラゲー」の愛称で親しまれている「DRAGONGATE」。高身長選手からプロレスでは珍しい小柄な選手までバラエティにとんだプロレスラーらが魅せる、華やかな技・跳躍力・スピード・ダイナミックな闘い。

観客が釘付けになるその理由とは。長年団体を支えてきた主力選手と、世代交代を目論む若手選手の台頭。リングに憧れを抱き、デビューを夢見る若者。涙を流し、熱い声援を送るファン…。

リングでは見られない選手たちの素顔を追いかけると、そこには華やかな舞台の裏に潜む苦悩があり、それぞれの夢があった。

<委員長総括>

■DRAGONGATE のガイド番組として、またプロレスのヒューマンウェアとソフトウェアを描いたドキュメンタリー番組として、各委員が総じて高く評価した、良い番組であった。

プロレス自体に興味がない方でも見られるよう、人の生き様や仕組みのおもしろさを番組として取り上げたところがよかったように思う。

スポーツ専門チャンネルとして、スポーツの生中継番組とは違う切り口、新しい取り組みは大事であり、GAORA に広がりや深みを持たせる番組への挑戦であった。

<審議意見>委員の主な意見は次の通り。

■冒頭、団体の魅力についてコンパクトに紹介してもらえたことで視聴意欲が出た。そしてこんなにも多くのレスラーがプロになりたいと挑戦しているという現実を知り、この団体への興味と応援する気持ちが湧いてきた。一人一人のプロレスラーに焦点を当て、どんな思いでリングに上っているかという心の内側を知ることで、プロレスが身近なものであり、アスリートが抱える苦悩はジャンルが違っていても変わらないことが認識できてより番組に入り込めた。

「体格的には決して大きくない小柄な選手たちが、スピードや空間を生かして技をリズムカルに展開していく非常に見ごたえのあるプロレス団体」であると感じ、新しいファン獲得に繋がる内容であったと評価する。

■CS 放送ならではのファンのための番組であった。プロレスというコンテンツは、カメラの前でレスラーがパフォーマンスを繰り広げる部分が大きく、評価するのが難しいところではあるが、この番組ではレスラーが本音で語っていることが伝わってきた。特に新入団の田中選手のシーンに強く興味を引かれ、ドラゴンキッドがリフリーからレスラーへ転身した話はもっと深く知りたくなった。

- 全体を通してバランスがよく、プロレスへの知見がないものでも分かりやすい内容で見やすい展開であった。番組が進むにつれてこれまでの歴史が理解できた。観客にどう伝わるかレスラーが真面目に考えている姿や、年齢を重ねても、鍛えあげた体から繰り広げられるその激しき技の凄さに驚かされた。そして、ただ試合に勝つだけではなく、ファンを引き付けるトークや笑いを含めたエンターテインメント要素も持ち合わせて初めて評価されることが番組を通してよく分かった。ただ、マスクを剥がされることの意味までは分からなかった。
- DRAGONGATEとプロレスのプロモートとして成立した、いい番組であった。団体とレスラーの生い立ちや人となり理解できたことは一つの成功であり、「一体この人は誰なのか？」が分かることが入門者にとって重要な要素であった。レスラーの語りをじっくり聞いていると、微妙な「肉体バランス」と「精神バランス」が上手く表現されていた。
私の見解では『プロレスは身体スペクタクル』である。プロレスの特殊性は勝ち負けではなく、善と悪、生と死といった二項対立の中で、人々が如何にカタルシスを感じるようレスラーが身体を通して表現できるか、が問われている。レスラーのパーソナリティーやキャラクターを作り上げていく過程を、テレビを通して表現していく興味深い番組であった。
- 普段あまり格闘技は見ないが、制作意図がよく伝わってきた番組であった。格闘技番組というよりエンターテインメント番組であった。団体の歴史やレスラー個人の生き様、プロレスとの向き合い方がよく伝わってきた。後段の田中選手のくだりでは、日々の練習風景から洗濯や食事作りなどの生活面、リングへの憧れや夢を語る姿、そしてレスラー間の競争や厳しさ、練習生が一人前のレスラーに叩き上げられていくまでの道筋が見えて印象に残った。あと番組ナレーターのテンポのよさが心地良かったことで、最後まで楽しく視聴できた。
- ファンの裾野を広げたいというテーマに沿い、その企画意図が結実されたいい番組に仕上がっていたと評価する。選手の描き方が、真面目でひたむきで誠実な姿を捉え魅力的であった。選手を絞って深く掘り下げる手法もあるが、今回の広く浅く取り上げる選択肢は理解できた。第二弾として、一定の選手をクローズアップして掘り下げる番組も是非期待したいところだ。最後に1点、吉岡選手のバッティングセンターのシーンでは、後ろからの画があれば尚よかったと思う。

[審議委員]

種子田穰委員長、影山貴彦副委員長、黒田勇委員、藤井純一委員、沢松奈生子委員、森本志磨子委員、樋口徹委員（以上7名）

GAORA では、これらの貴重なご意見を、これからもより良い番組をお届けしていくために大いに活用させていただきます。

以上